

年頭の辞

衆議院議員 中谷 真一



年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

まずは高市政権発足にともなう人事により財務副大臣を拝命致しました。私自身元自衛官、父親もサラリーマン、地盤、看板、カバンなしから始めた者として、身に余る光栄であり、これをご支援頂いている皆様のおかげです。国家国民のため全力で職務に邁進して参ります。

さて、高市総理は就任まもなく、トランプ大統領と会談し、防衛費をGDP比2%に今年度中に引き上げると表明し、年末に編成した補正予算に1・1兆円を上乗せし、令和7年度防衛費を約11兆円にしました。防衛予算は軍事側が積み上げていくもので、その結果高さが決まるという方々がおられますが、私はそうではないと考えます。

まず、我が国の安全保障環境を鑑み、防衛費にどれくらい国力を割くのかは国家の意志であって政治が決めることです。よってGDP比で何%という議

論があります。あくまでも軍事は、政治の手段ですから、その高さが決まった上でどう使うかを決めるのが軍事であり、今回上乗せした予算も含め防衛省自衛隊には有効に使って頂きたいと思います。

ロシアのウクライナ侵攻を見てわかるように抑止力を高める反撃能力の保持は必要で、また、戦争は長期化します。よってこれを継続する能力、継戦能力が必要です。人、物をどのように供給するかアリズムをもつて整備していかねればなりません。また、戦争の形態も変化しています。ドローン、AI等の新技術、宇宙利用による監視能力、通信の強化等あり、まず優先順位を明確にして早急に整備する必要があります。

また、台湾有事をめぐる発言で中国との間に摩擦が生じていますが、高市総理の発言は少々踏み込みすぎた感があります。只、今回、立憲民主党岡田元外務大臣が行った外交における失言を誘う行為は、国家にとって危険がともないます。国益を考えるなら慎むべきだと考えます。さらに、防衛力整備はドラを鳴らしながらするものではなく静かに行うものと理解しています。安全保障の現場を経験した一人の政治家としてこれらを念頭に国家のため職務を遂行して参ります。

皆様の引き続きのご指導ご支援を宜しくお願い致します。